

富山支部医療費分析について



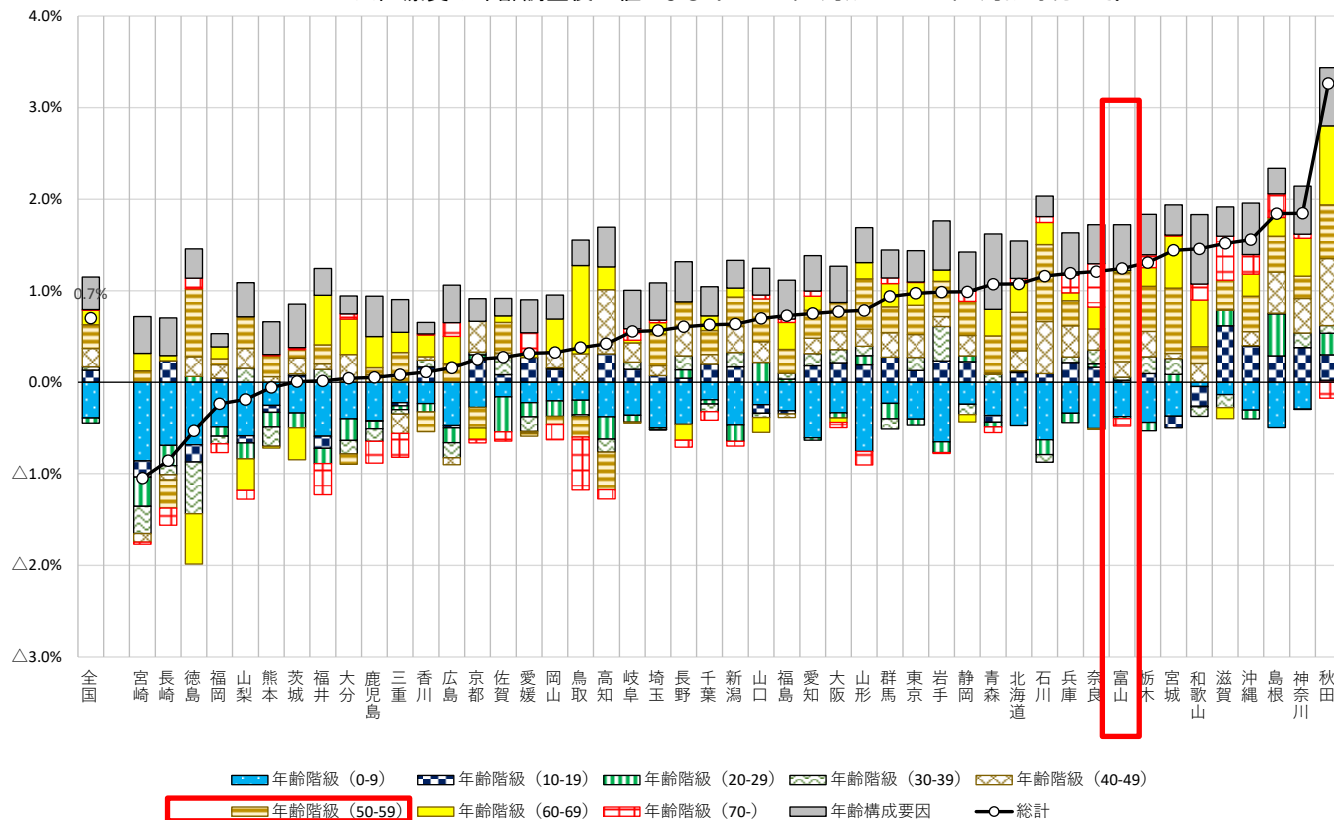
令和8年7月13日
全国健康保険協会富山支部

1. 分析の目的

- 2024年度加入者1人当たり医療費の対前年同期比で50代の加入者が大きく伸びていたため、医療費を診療別、疾病分類別などで分析を行い、その要因を探った。

加入者1人当たり医療費の対前年同期比（2024年度）

※医療費は年齢調整後の値となる（2024年3月から2025年2月診療分まで）



※ 健康保険法第3条第2項の日雇特例被保険者及びその被扶養者を除く協会けんぽの2024年5月から2025年4月に受け付けたレセプトについて集計したものです。

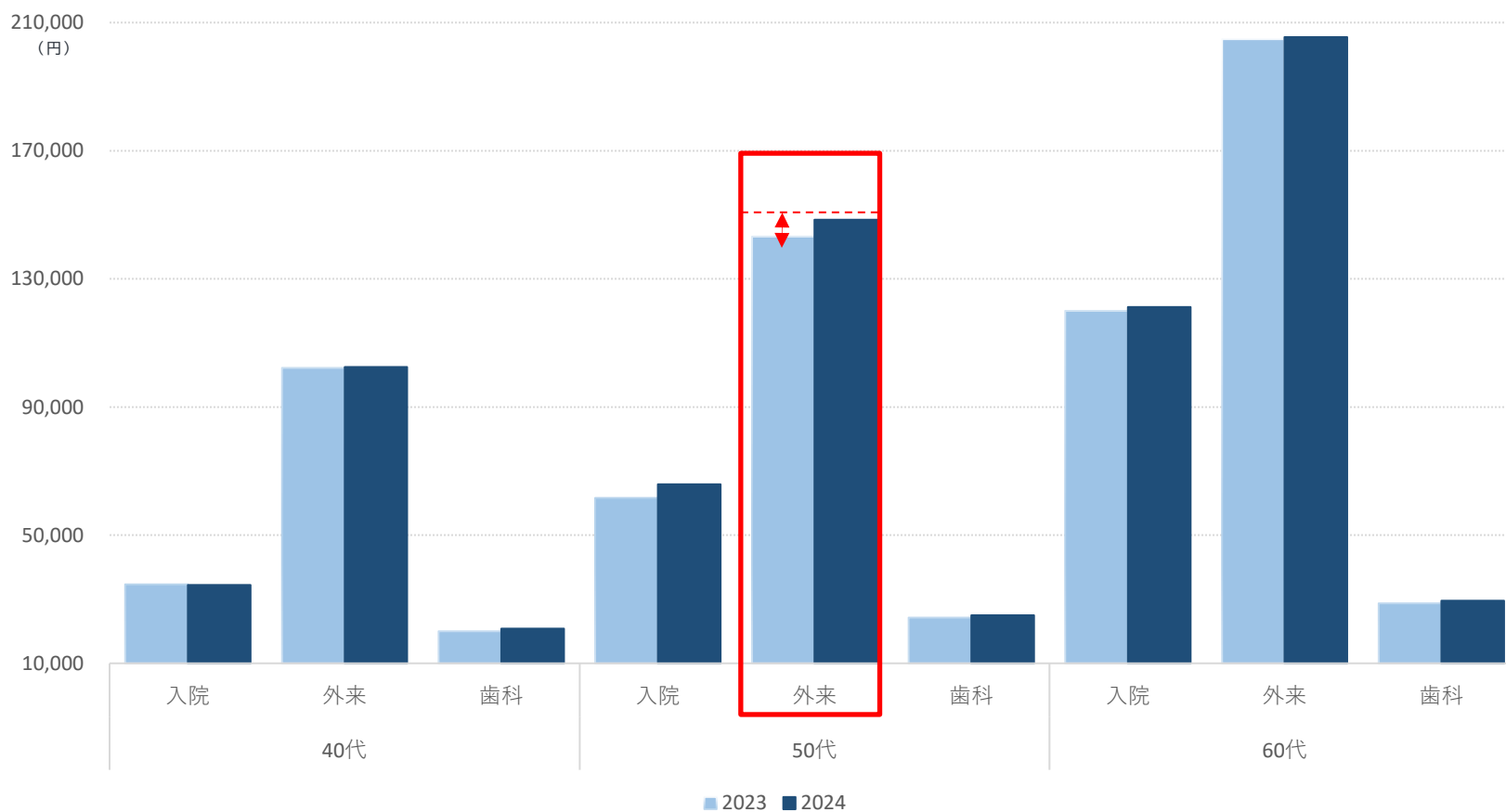
これは、社会保険診療報酬支払基金の一次審査分のみを計上しており、再審査分は含まれていません。

※ 1人当たり医療費は、「年齢別1人当たり医療費」が変化しなくても、加入者の異動や高齢化等といった「年齢構成」が変化することでも影響を受けます。年齢構成要因とは、この年齢構成が変化したことによる影響を示したものです。

2. 加入者の診療種別医療費

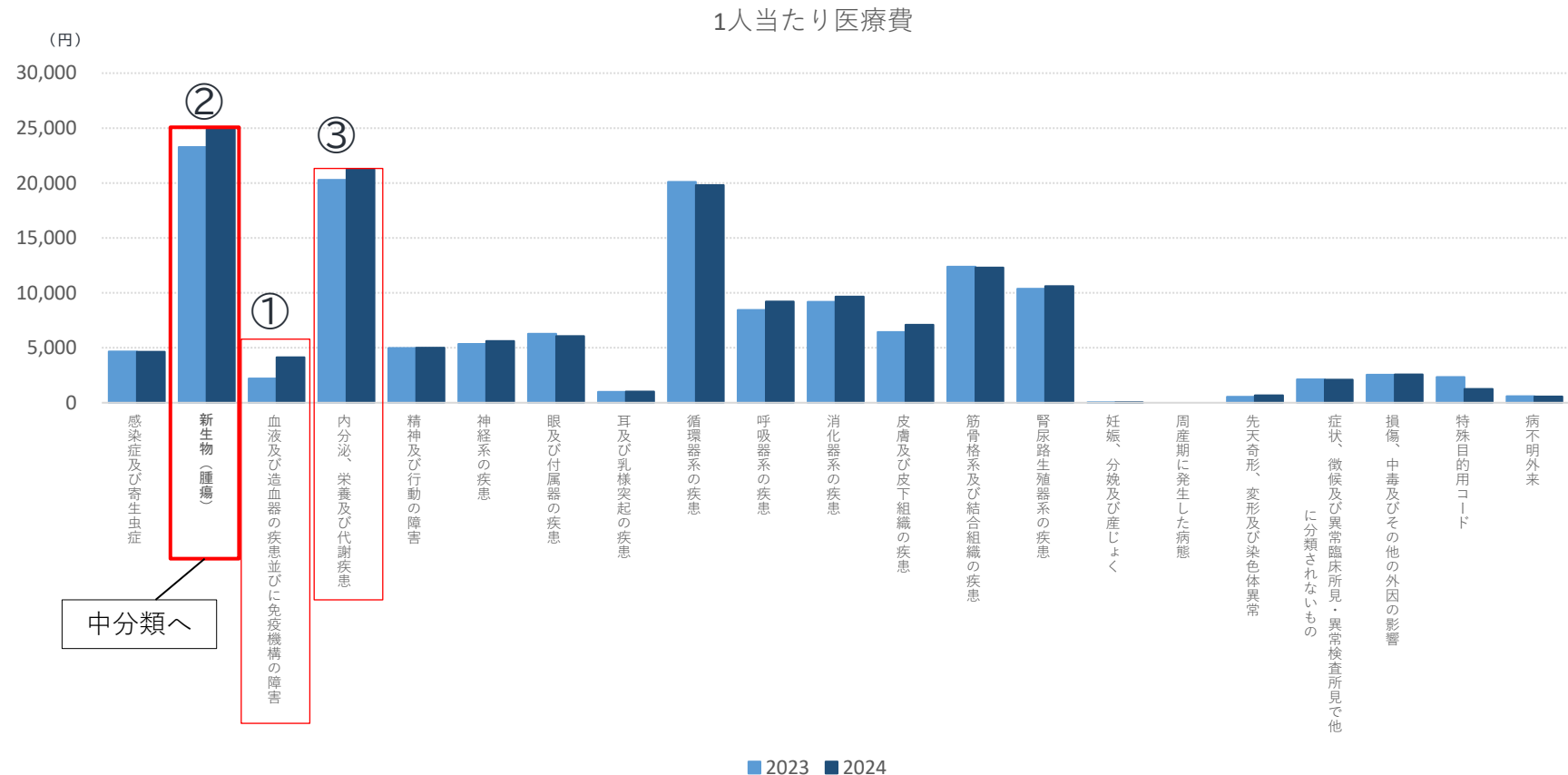
- 50代の入院、外来、歯科いずれも2023年度と比較して2024年度の1人当たり医療費は増加した。
- 50代の1人当たり医療費の中でも外来が前年度と比較すると最も増加した。

1人当たり医療費



3. 50代加入者の疾病大分類別医療費（外来）

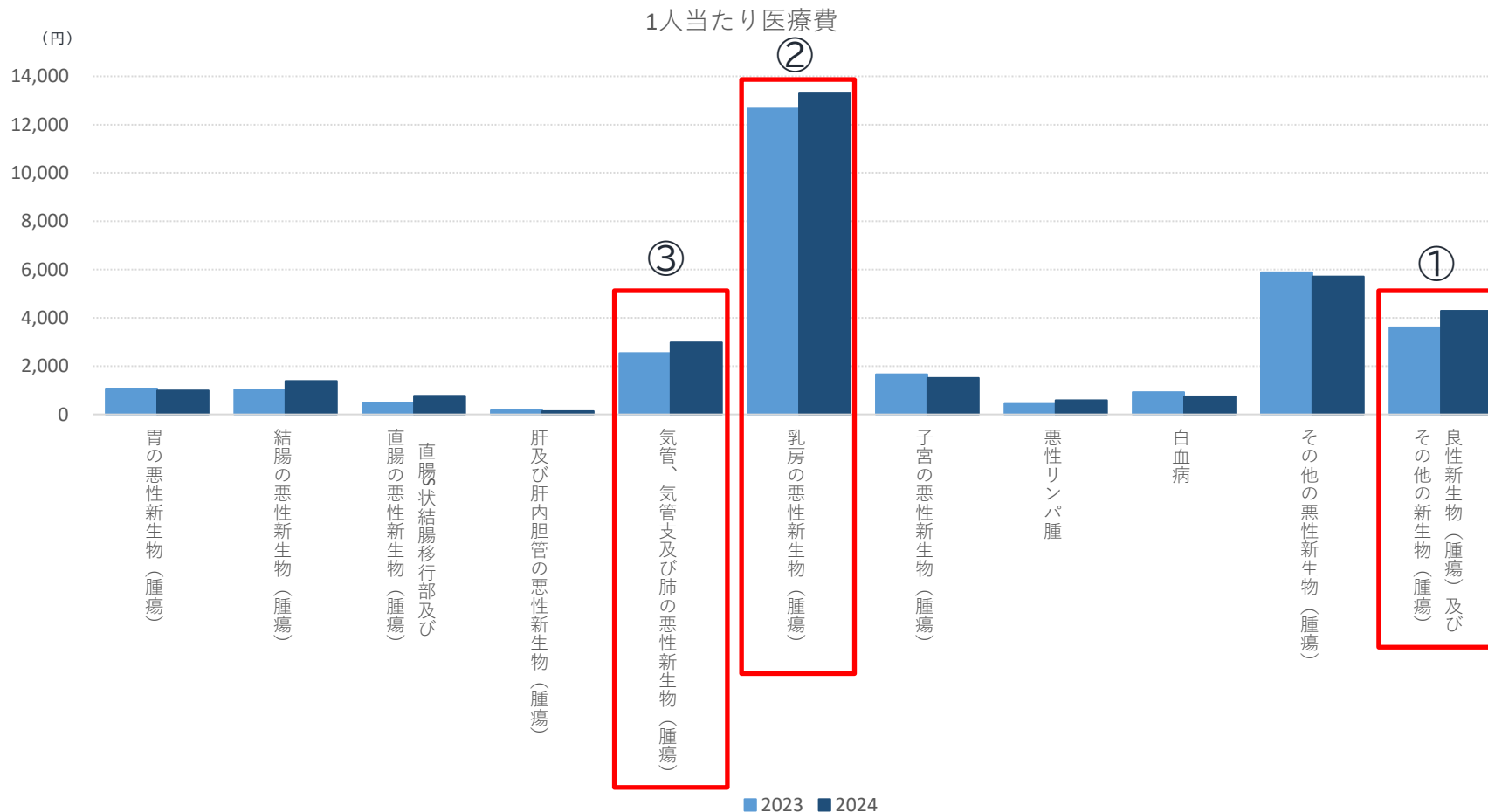
- 前年度と比較して①血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、②新生物（腫瘍）、③内分泌、栄養及び代謝疾患の順に1人当たり医療費が増加した。
- ①血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害は前年度から最も1人当たり医療費が増加しているが、1人当たり医療費は低く、また受診率も低い。



4. 50代加入者の疾病中分類別医療費（外来・新生物）

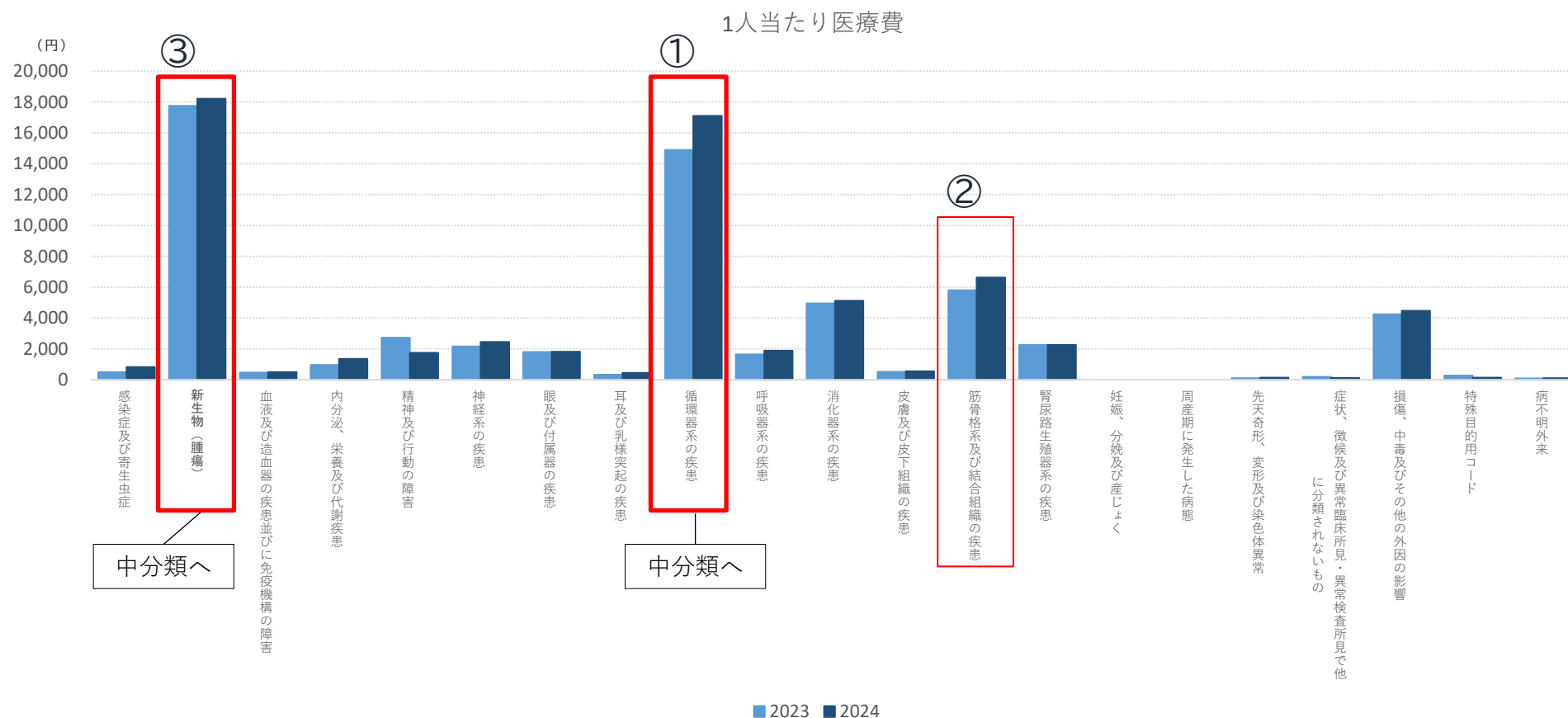
- 前年度と比較して①良性新生物（腫瘍）及びその他の新生物（腫瘍）、②乳房の悪性新生物（腫瘍）、③気管、気管支及び肺の悪性新生物（腫瘍）の順に1人当たり医療費が増加した。

良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞・・・上皮内癌、子宮筋腫、脂肪種、血管腫など



5. 50代加入者の疾病大分類別医療費（入院）

- 前年度と比較して①循環器系の疾患、②筋骨格系及び結合組織の疾患、③新生物（腫瘍）の順に1人当たり医療費が増加した。
- ①循環器系の疾患と③新生物（腫瘍）は1人当たり医療費が前年度から増加かつ1人当たり医療費が高いことから50代の医療費（入院）が伸びた要因の一つと考えられる。

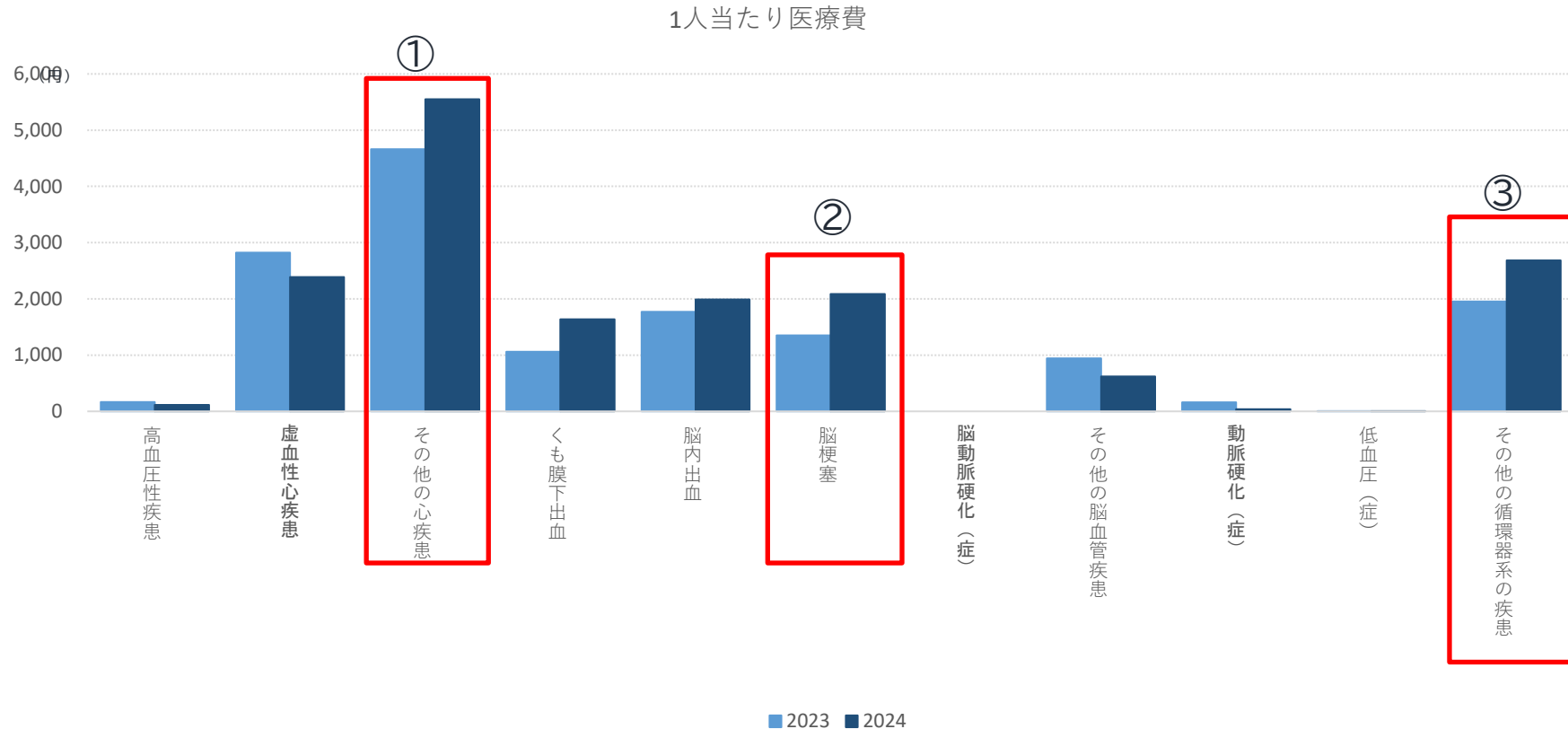


6. 50代加入者の疾病中分類別医療費（入院・循環器系の疾患）

- 前年度と比較して①その他の心疾患、②脳梗塞、③その他の循環器系の疾患の順に1人当たり医療費が増加した。

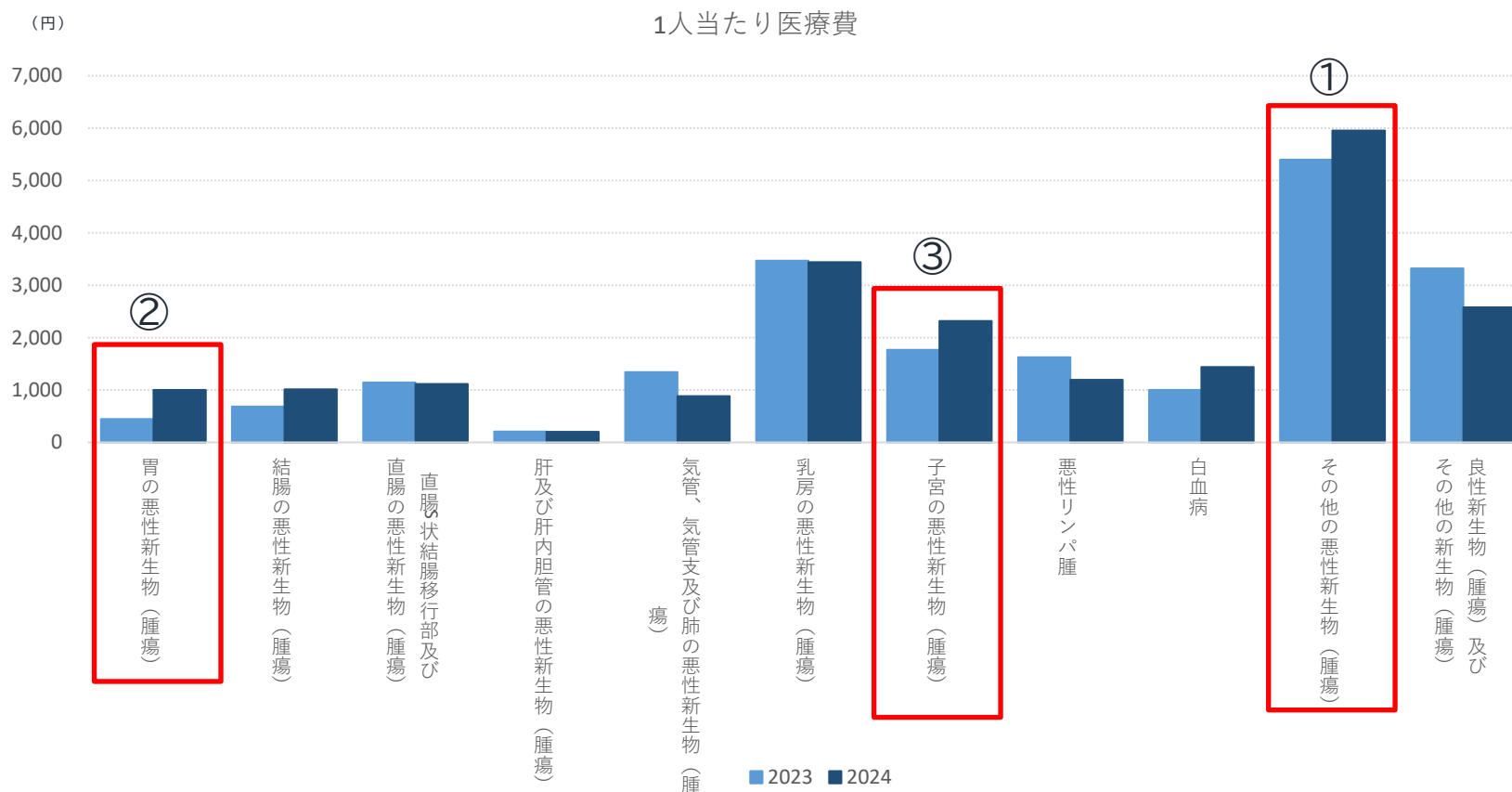
その他の心疾患・・・心不全、心房細動、心筋症、大動脈弁狭窄症など

その他の循環器系の疾患・・・肺塞栓症、大動脈瘤、リンパ管炎など



7. 50代加入者の疾病中分類別医療費（入院・新生物）

- 前年度と比較して①その他の悪性新生物（腫瘍）、②胃の悪性新生物（腫瘍）、③子宮の悪性新生物（腫瘍）の順に1人当たり医療費が増加した。
- ①その他の悪性新生物（腫瘍）、②胃の悪性新生物（腫瘍）、③子宮の悪性新生物（腫瘍）の1人当たり医療費がいずれも同等程度増加したことが50代の新生物の医療費（入院）が前年度から伸びた要因の一つと考えられる。



8. 医療費の3要素分解

●医療費の3要素分解とは

医療費を構成する「受診率」、「1件当たり日数」、「1日当たり医療費」の3つの指標に分解し、医療費が増減した背景や要因を分析する手法

①受診率（受診頻度）

一定期間内にどれくらいの人が医療機関を受診したかを示す割合。

持病を持つ方の増加、地域の医療機関へのアクセスの良さ、感染症の流行などによって伸びる。

〈計算方法〉 受診率＝レセプト件数÷加入者数

②1件当たり日数（受診の長さ）

1回の病気で、何日間治療を受けたかを示す日数、慢性疾患の増加や高齢化、重症化などによって伸びる。

〈計算方法〉 1件当たり日数＝受診した日数÷レセプト件数

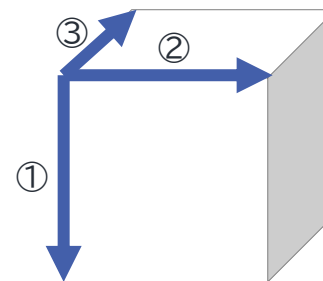
③1日当たり医療費（治療の重さ）

1日当たりにかかった平均医療費。この金額が高いほど高度な治療や多くの薬が使われたことを示す。

〈計算方法〉 医療費＝医療費÷受診した日数

$$\text{1人当たり医療費} = \text{①} \times \text{②} \times \text{③}$$

※直方体の体積が1人当たり医療費となる。



9. 50代加入者の疾病中分類別医療費（外来・新生物）の三要素分解

①良性新生物（腫瘍）及びその他の新生物（腫瘍）：受診率は高く、前年より増加。1日当たり医療費は低いが前年より増加。

②乳房の悪性新生物（腫瘍）：受診率は高く、前年より増加。

③気管、気管支及び肺の悪性新生物（腫瘍）：受診率は低いが前年より増加、1日当たり医療費は高く、前年より増加。

	受診率（レセプト件数/加入者数）			1件あたり日数（受診日数/レセプト件数）			1日あたり医療費（円/受診日数）		
	当期	前年同期	伸び率	当期	前年同期	伸び率	当期	前年同期	伸び率
胃の悪性新生物＜腫瘍＞	0.014	0.013	107%	1.37	1.44	95%	50,649	55,551	91%
結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	0.022	0.022	103%	1.47	1.42	103%	42,342	33,384	127%
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	0.007	0.006	116%	1.97	1.70	116%	55,359	47,293	117%
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	0.003	0.003	109%	1.30	1.31	99%	32,112	45,538	71%
③ 気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	0.014	0.012	115%	1.47	1.57	93%	144,984	133,285	109%
② 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞（女性のみ）	0.113	0.108	104%	1.69	1.68	101%	70,039	69,784	100%
子宮の悪性新生物＜腫瘍＞（女性のみ）	0.026	0.024	106%	1.45	1.44	101%	40,013	47,466	84%
悪性リンパ腫	0.006	0.005	114%	1.47	1.49	99%	67,443	60,629	111%
白血病	0.003	0.003	92%	1.58	1.18	134%	184,626	280,983	66%
その他の悪性新生物＜腫瘍＞	0.049	0.048	102%	1.56	1.57	100%	73,927	77,466	95%
① 良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	0.143	0.137	104%	1.27	1.28	99%	23,563	20,524	115%

10. 50代加入者の疾病中分類別医療費（入院・循環器系の疾患）の三要素分解

①その他の心疾患、③その他の循環器系の疾患：

受診率は低いが前年より増加、1日あたり医療費は前年より増加

②脳梗塞：受診率、1日当たり医療費とも高くないが、前年より増加。

	受診率（レセプト件数/加入者数）			1件あたり日数（受診日数/レセプト件数）			1日あたり医療費（円/受診日数）		
	当期	前年同期	伸び率	当期	前年同期	伸び率	当期	前年同期	伸び率
高血圧性疾患	0.0005	0.0006	78%	7.50	7.19	104%	30,739	36,826	83%
虚血性心疾患	0.0030	0.0034	89%	5.12	5.64	91%	155,400	148,639	105%
① その他の心疾患	0.0036	0.0033	109%	8.44	8.31	102%	182,753	170,106	107%
くも膜下出血	0.0010	0.0007	142%	17.45	17.20	101%	96,444	90,019	107%
脳内出血	0.0024	0.0019	128%	19.66	20.63	95%	42,100	45,942	92%
② 脳梗塞	0.0025	0.0020	126%	15.96	15.92	100%	52,965	43,211	123%
脳動脈硬化（症）	0.0000	0.0000	#####	#####	#####	#####	#####	#####	#####
その他の脳血管疾患	0.0005	0.0011	44%	9.08	11.77	77%	142,219	73,376	194%
動脈硬化（症）	0.0000	0.0002	24%	6.00	7.08	85%	161,714	139,245	116%
低血圧（症）	0.0000	0.0000	97%	2.50	2.00	125%	62,058	63,090	98%
③ その他の循環器系の疾患	0.0018	0.0013	138%	11.29	12.60	90%	130,796	117,665	111%

1 1 . 50代加入者の疾病中分類別医療費（入院・新生物）の三要素分解

①その他の悪性新生物（腫瘍）：受診率は低いが1件あたり日数が増加。

②胃の悪性新生物（腫瘍）、③白血病：受診率は低いが前年より増加、1日あたり医療費は大きく増加。

	受診率（レセプト件数/加入者数）			1件あたり日数（受診日数/レセプト件数）			1日あたり医療費（円/受診日数）		
	当期	前年同期	伸び率	当期	前年同期	伸び率	当期	前年同期	伸び率
② 胃の悪性新生物＜腫瘍＞	0.0011	0.0007	155%	9.48	8.50	112%	93,677	72,406	129%
結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	0.0013	0.0011	119%	8.48	6.30	134%	91,029	98,240	93%
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	0.0012	0.0011	108%	9.01	11.39	79%	101,351	88,821	114%
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	0.0003	0.0003	89%	6.50	7.35	88%	99,787	81,190	123%
気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	0.0012	0.0016	73%	8.45	7.64	111%	88,635	107,956	82%
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞（女性のみ）	0.0052	0.0056	93%	6.20	6.97	89%	106,266	88,840	120%
子宮の悪性新生物＜腫瘍＞（女性のみ）	0.0030	0.0022	135%	9.13	8.28	110%	85,120	96,892	88%
悪性リンパ腫	0.0008	0.0009	89%	14.59	14.14	103%	106,783	133,761	80%
③ 白血病	0.0005	0.0005	113%	20.38	19.64	104%	129,275	105,066	123%
① その他の悪性新生物＜腫瘍＞	0.0060	0.0058	105%	11.31	9.01	126%	87,442	104,076	84%
良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	0.0046	0.0048	95%	6.50	6.75	96%	86,901	102,164	85%

12. 考察及び今後の取り組み

●50代の医療費の伸びについての考察

- ・健康意識が高まる50代は健診受診率が高く、早期発見による医療機関受診が増加したことが外来医療費増加の要因の一つとして考えられる。
- ・外来医療費増加の大きな要因である「①良性新生物（腫瘍）及びその他の新生物（腫瘍）」、「②乳房の悪性新生物（腫瘍）」、「③気管、気管支及び肺の悪性新生物（腫瘍）」（P5参照）について、入院では受診率が減少している（P12参照）ことから、外来化学療法への移行等の要因が考えられる。
- ・1日当たり医療費の伸びについては、高額な薬剤の使用量増加や、高度な手術（手術支援ロボットの導入・増台、カテーテルなど）の増加も要因の一つとして考えられる。
- ・入院、外来ともに新生物や循環器系の疾患は元々医療費が高額であり、医療費全体への影響度が高いことから、引き続き疾病予防に注力していくことが必要である。

●今後の取り組み

- ・一時的に医療費は増加するものの、重症化を予防し将来の大幅な医療費上昇を抑えるため、生活習慣病予防健診や人間ドックの助成を活用した、がん検診の受診にかかる啓発及び受診勧奨を継続的に行う。
- ・健診後の適切な行動「健康づくりサイクル※」についても事業所及び加入者に対して周知啓発を行う。

※【健康づくりサイクル】①健診を受診→②生活習慣の見直し、医療機関受診→③日々の健康づくり→翌年また①から実施するサイクル

- ・富山支部の課題である代謝（血糖）リスク保有者割合が全国より高いこと（男性はすべての年代で全国平均より高く、55歳以上は特に高くなっている）も循環器系疾患の入院が1人当たり医療費が増加している要因と考えられるため、引き続き特定保健指導による生活習慣改善指導や未治療者に対する医療機関への早期受診勧奨など重症化予防の取り組みを強化していく。